

# 甲賀市

## 小学生・中学生の生活に関するアンケート調査結果 【概要版】

### 調査の概要

#### 1 調査の目的

市内の児童生徒による家族の世話の状況や、それに伴う日常生活への支障、支援ニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援策の検討資料とするために実施しました。

#### 2 調査対象

- ① 市立小学校（5・6年生）約1,600人
- ② 市立中学校（全学年）約2,400人

#### 3 調査期間

令和4年11月上旬～下旬

#### 4 調査方法

学校配付・学校回収方式

#### 5 調査項目

令和2・3年度に厚生労働省が実施した「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」の調査項目を基本として、下記の項目等により実施。

- ・基本情報（学年、同居者、健康状態など）
- ・学校生活（欠席、遅刻、授業や課題の取り組み状況、悩みの有無等）
- ・家庭生活（家事やお世話等の実施状況、負担や悩みの有無、相談状況、必要な支援等）
- ・ヤングケアラーの認識（中学生のみ）

#### 6 回収状況

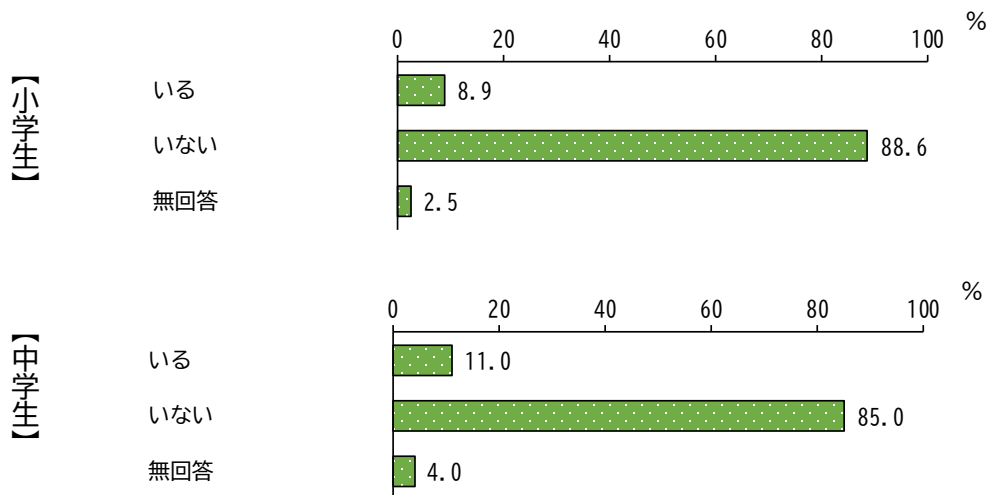
	配付数	有効回答数	有効回答率
小学生調査	1,557通	1,249通	80.2%
中学生調査	2,384通	1,909通	80.1%

令和5年3月  
甲賀市

## 主な調査結果

問 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

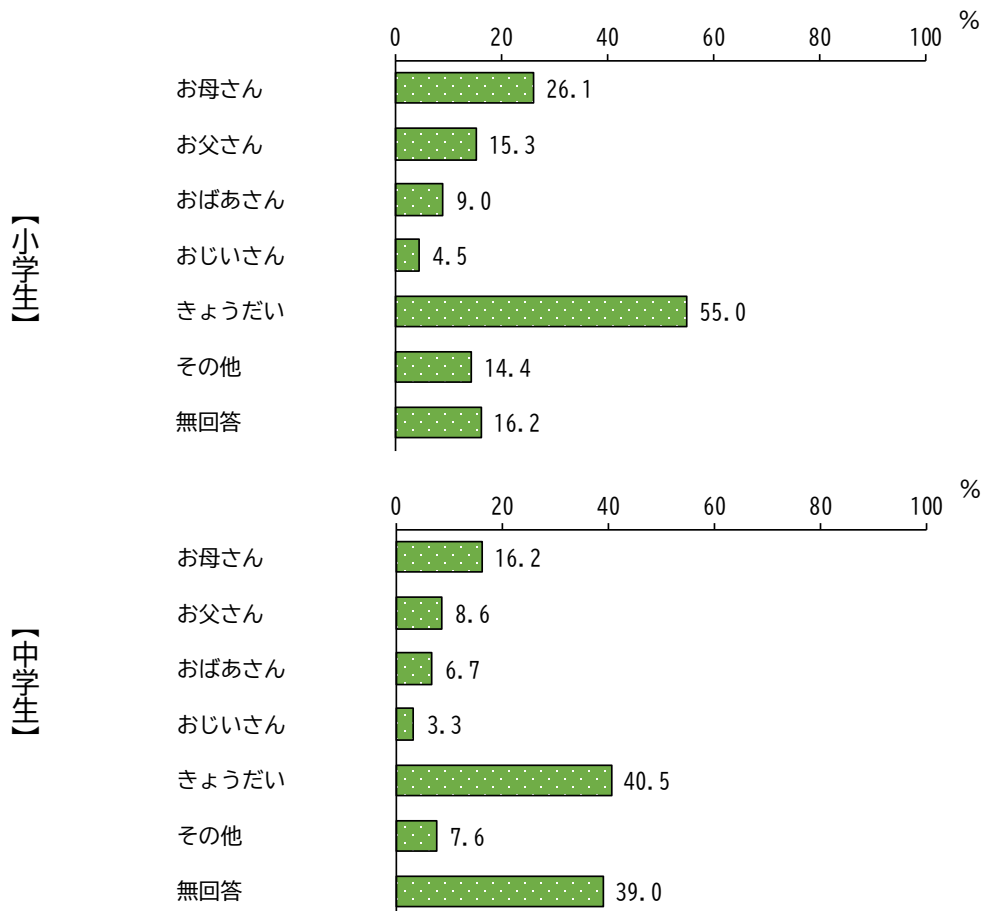
「いる」の割合が小学生で8.9%、中学生で11.0%となっています。



【お世話をしている人がいる小中学生】

問 あなたは誰をお世話していますか。(あてはまる番号すべてに○)

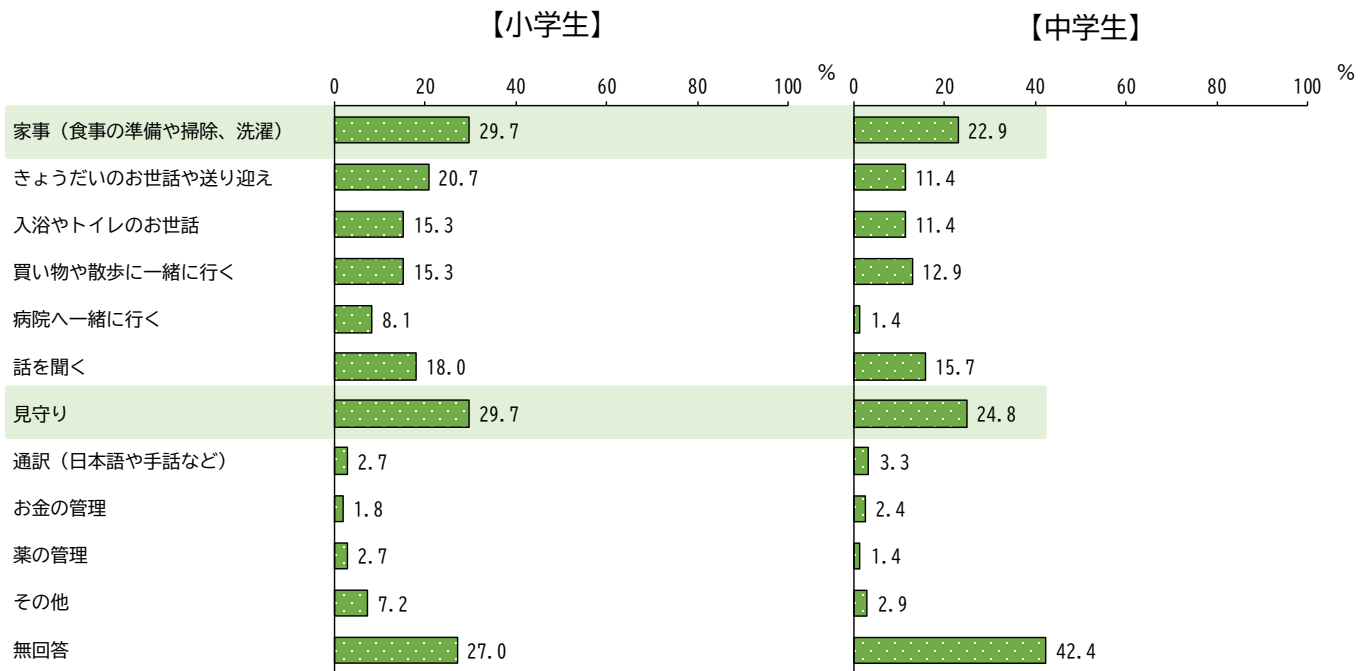
小中学生共に「きょうだい」の割合が最も高くなっています。次いで「お母さん」「お父さん」の割合が高くなっています。



## 【お世話をしている人がいる小中学生】

問 あなたはどのようなお世話をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

小中学生共に、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「見守り」の割合が高くなっています。



問 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

～ お世話している人の有無別 ～

お世話している人の有無別でみると、『いる』と回答した人の方が小中学生ともに多くの項目で割合が高くなっています。特に「宿題や課題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」の割合が高くなっています。

【小学生】

単位：％

区分	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
全体	3.3	8.7	17.9	1.7	11.8	0.1	0.8	4.8	7.8	64.9	2.4
いる	1.8	14.4	27.9	3.6	16.2	—	1.8	5.4	11.7	48.6	3.6
いない	3.3	8.2	16.8	1.5	11.3	0.1	0.7	4.9	7.6	67.2	1.4

【中学生】

単位：％

区分	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
全体	13.1	17.9	16.9	5.0	17.9	0.8	1.9	5.3	7.3	54.5	6.7
いる	19.5	24.8	27.6	7.1	26.7	1.0	5.2	6.7	12.4	39.5	5.2
いない	12.9	17.8	16.2	4.9	17.6	0.8	1.6	5.4	7.0	58.8	2.8

問 あなたが悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

～ お世話している人の有無別 ～

お世話している人の有無別でみると、『いる』と回答した人の方が、小中学生ともにすべての項目で割合が高くなっています。

また、『いる』と回答した小学生では「友達のこと」、中学生では「学業成績のこと」の割合が高くなっています。

【小学生】

単位：%

区分	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体	14.5	8.6	5.0	5.0	3.3	2.9	3.2	70.2	3.0
いる	24.3	9.0	9.0	11.7	5.4	6.3	5.4	55.0	3.6
いない	13.8	8.5	4.7	4.4	3.1	2.6	3.1	72.4	2.1

【中学生】

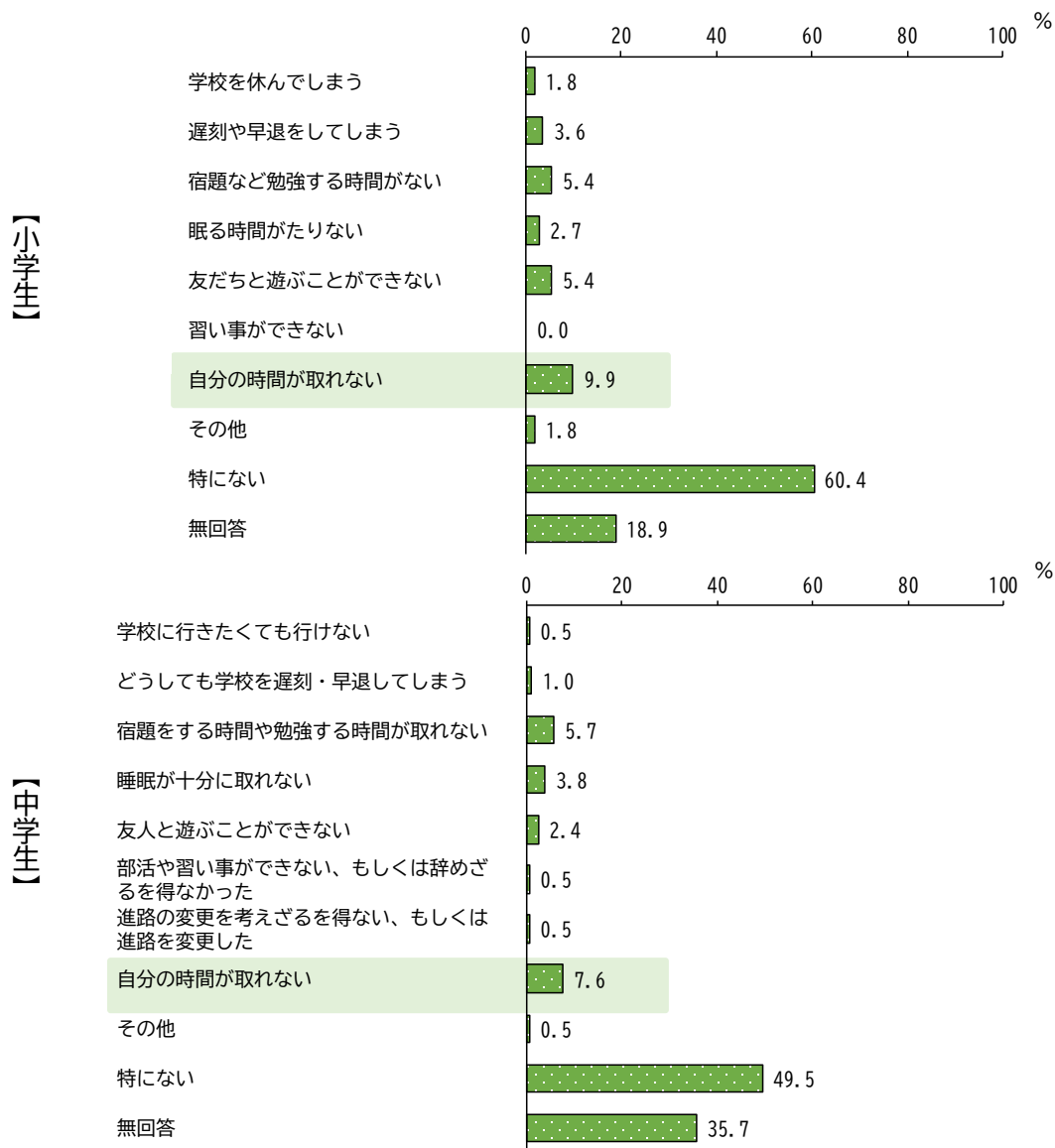
単位：%

区分	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	給食費や教材費など学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族の関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	10.8	30.6	31.2	6.4	1.9	1.0	2.3	3.6	3.3	0.9	2.5	2.4	45.6	7.1
いる	12.4	40.0	37.6	9.0	3.8	1.4	5.2	7.6	4.8	1.9	5.2	1.9	36.7	5.7
いない	11.1	30.8	31.8	6.4	1.7	1.0	2.0	3.3	3.3	0.8	2.2	2.5	48.7	3.2

## 【お世話をしている人がいる小中学生】

問 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

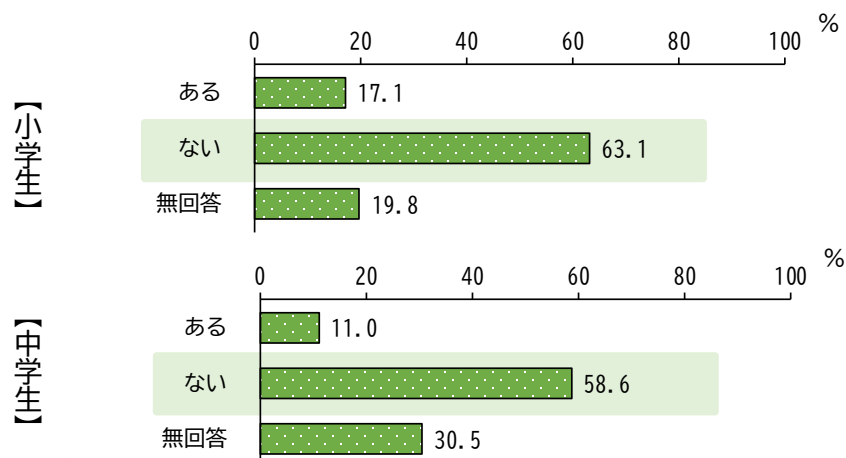
小中学生共に、「特にない」の割合が高くなっていますが、「自分の時間が取れない」の割合が小学生で9.9%、中学生で7.6%となっています。



## 【お世話をしている人がいる小中学生】

問 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

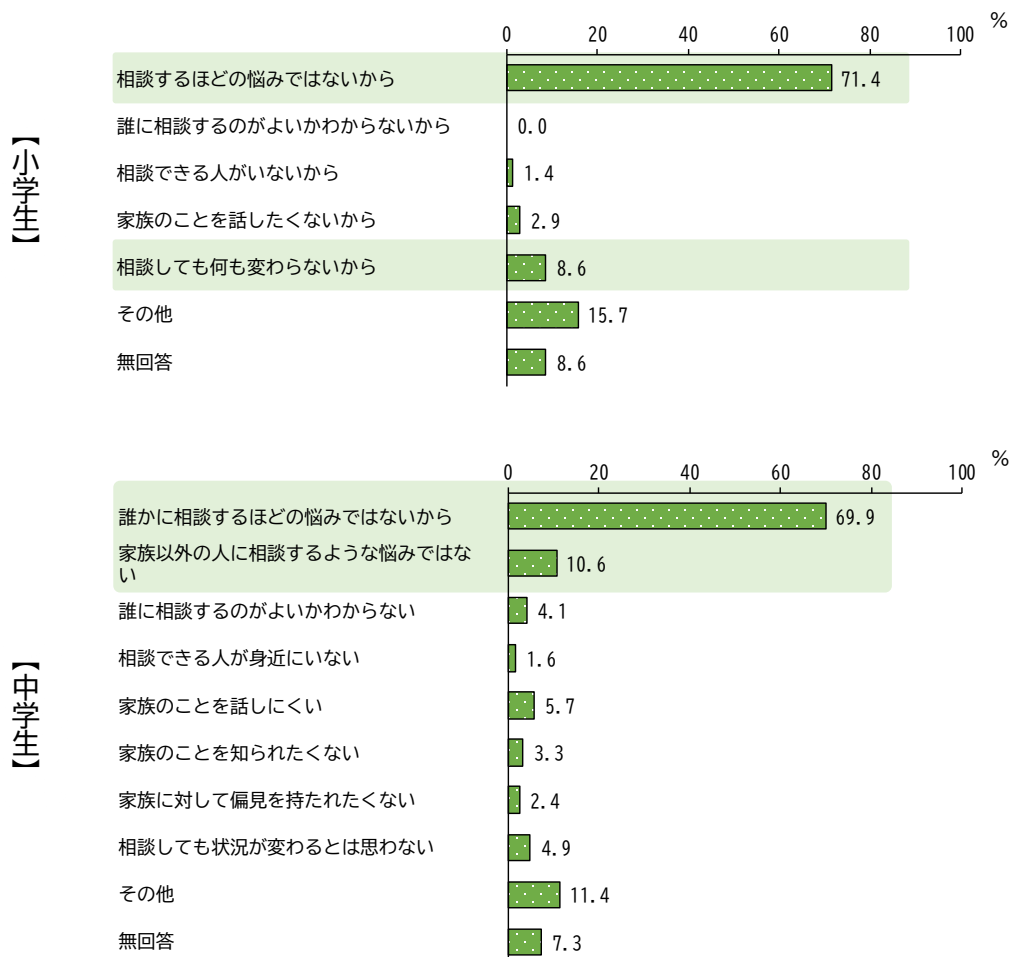
小中学生共に、「ない」の割合が約60%と高くなっています。



## 【お世話の悩みについて相談をしたことのない小中学生】

問 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

小中学生共に、「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高くなっています。また、小学生で「相談しても何も変わらないから」の割合が、中学生では「家族以外の人に相談するような悩みではない」の割合も高くなっています。

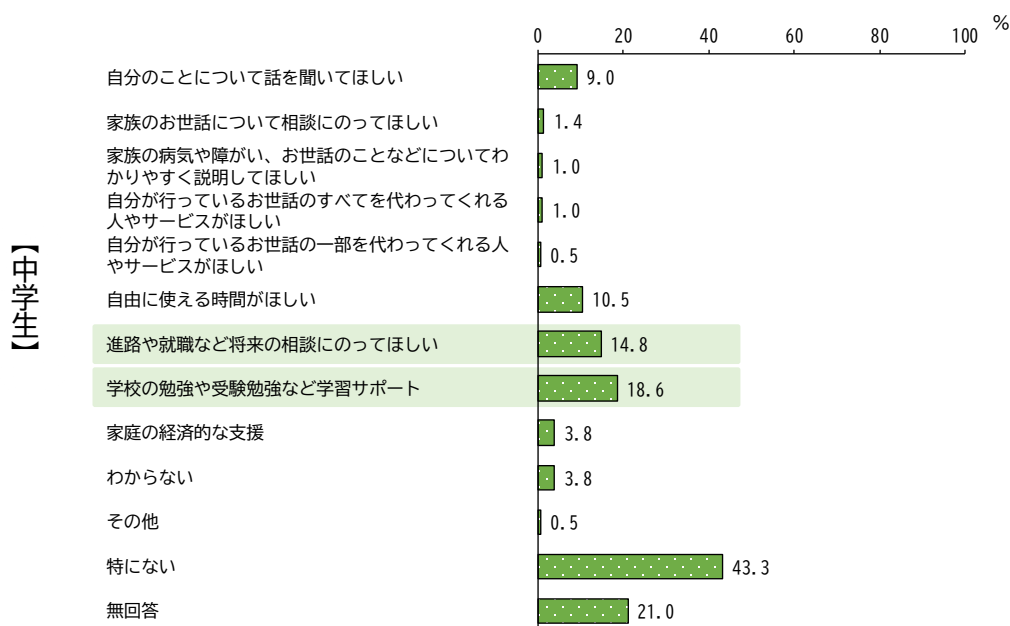
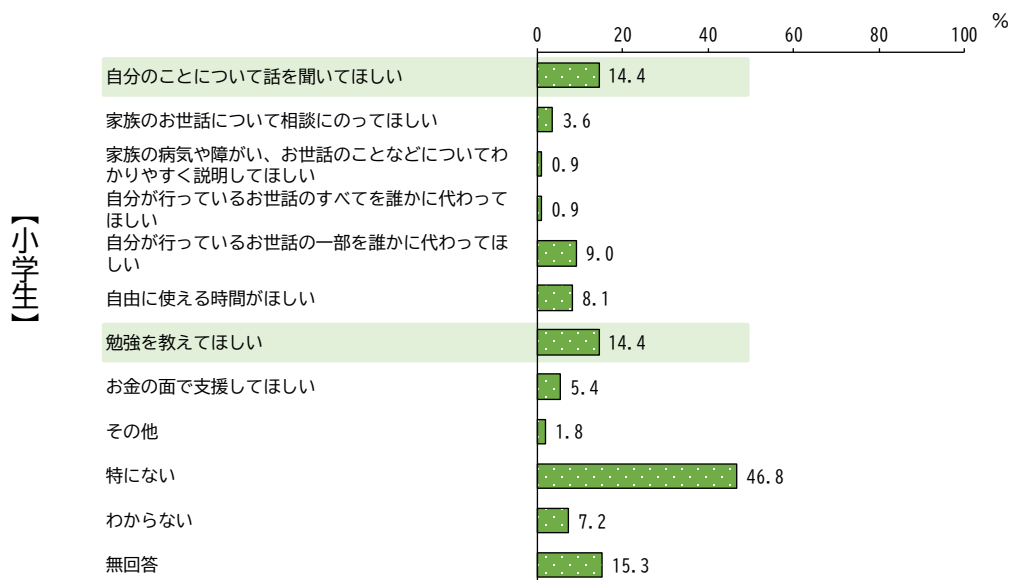


## 【お世話をしている人がいる小中学生】

問 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

小学生では、「自分のことについて話を聞いてほしい」、「勉強を教えてほしい」の割合が高くなっています。

中学生では、「学校の勉強や受験勉強など学習サポート」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合が高くなっています。





## 【アンケート結果からの考察】

- この調査において「お世話」とは、「普通大人が行うような家事や家族の世話を指す」と注釈している。調査時にどの程度のお世話がそれにあたるかなど具体的な説明を行っていないことから、一般的に大きな負担と思われるお世話をしている、「その家族にとっては当たり前」と感じている場合や、お手伝い程度と思われるお世話をしている、「普通大人が行うような家事や家族の世話」と感じている場合など、多少の認識の違いがあることについては、一定考慮すべき点であると考ええる。
- 家族の世話をしていると回答した小学生は全体の8.9%、中学生は11.0%であった。国が令和2年度、3年度に実施した調査結果（小学生6.5%、中学生5.7%）と比べると、調査の実施方法や対象学年等に違いがあるものの、やや高い傾向がみられた。
- 世話を必要としている家族は、「きょうだい」が最も多く、小学生で55.0%、中学生で40.5%、次いで母親が小学生で26.1%、中学生で16.2%であった。国の調査においても同様の傾向がみられた。
- 世話の内容としては、小中学生ともに「見守り」「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「きょうだいのお世話や送り迎え」「話を聞く」等の割合が高く、国の調査と同様の傾向がみられた。「通訳（日本語や手話など）」の割合は、小学生で2.7%、中学生で3.3%と全体から見るとそれほど高い割合ではないが、世話を必要とする父母の状態としては、「日本語が苦手」とする回答が小学生で20.0%、中学生で14.7%であり、日本語が苦手な親に代わって通訳をしている小中学生が一定数いることが伺える。
- 普段の学校生活等や悩みの状況を家族の世話をしている人としていない人で比較すると、小中学生ともに世話をしている人の方がほとんどの項目で高い割合となり、家族のお世話をすることにより学校生活や時間の余裕等日々の生活への影響が出ていることに加え、気持ちの面にも影響を及ぼしている可能性が考えられる。
- 「家族の世話をしていることでできないこと」の問いでは、小中学生ともに「特になし」の割合が高いものの、「自分の時間がとれない」「宿題など勉強する時間がとれない」など本人の育ちや教育に影響があると思われる課題が少数ながらも確実にあることが確認できた。国の調査においても同様の傾向がみられた。
- 家族の世話や悩みに関する相談状況は、「相談したことがない」が小中学生ともに約60%であり、その理由は「相談するほどの悩みではない」が高い割合となった。しかし、家族の置かれた状況や家族の世話をすることを当たり前と感じている可能性があることも考慮すべきであると考ええる。また、少数ながら「相談しても何も変わらない」「家族のことを話したくない」と回答した人もおり、相談体制や支援方法の在り方について検討が必要である。

○家族の世話をしている人が求める支援は小中学生ともに「勉強など学習のサポート」「自分のことについて話を聞いてほしい」「自由に使える時間が欲しい」等が高い割合となっており、相談体制の構築はもちろんであるが、支援の検討にあたっては、実情や希望に応じて、学習のサポート等についても関係機関と連携できる体制を整える必要がある。

#### 【今後に向けて】

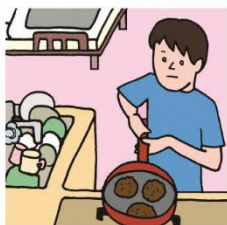
家族の世話をしている子どもは、していない子どもに比べ、「宿題や課題ができていない」「忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」など様々な項目で割合が高い傾向となっており、日常生活に何らかの支障が生じていると考えられる。家族の世話の程度にかかわらず、子ども自身のやりたいことができ、権利が守られるよう、上記のような傾向がみられる子どもについては、地域や学校において注意深く見守るとともに、「ヤングケアラー」と思われる子どもについては、早期に適切な支援が受けられるよう関係機関との連携体制等を具体的に構築していく必要がある。

また、家族の世話をしている子どもの多くは、その悩みについて相談していないことが多く、自らその大変さやSOSを声に出すことが少ない傾向がある。状況が深刻化する前の早期の段階で、子どもたちが気軽に相談できるよう、相談窓口の周知に加え、具体的な家族の世話の状況やその影響事例、相談後の支援事例等をわかりやすく伝えるなど、子どもたちが安心して相談できる体制を整えることが必要である。

## ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

### <ヤングケアラーのイメージ 例>



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

甲賀市小学生・中学生の生活に関する  
アンケート調査結果報告書  
【概要版】  
令和5年3月

発行：甲賀市 こども政策部 子育て政策課  
TEL 0748-69-2176  
FAX 0748-69-2298